

所報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第133号 平成29年 9月26日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 TEL 381-1058

（主な内容）

- ・江別市教職員夏期セミナーについて
- ・小学校外国語活動・英語活動指導連絡協議会「指導計画編集委員会」の開催について

満足度91.7% 553名の参加

平成29年度の夏期セミナーは、7月27日（木）から8月2日（水）までの5日間で行いました。先生方は熱心に受講し、グループ討議や演習などを通して多くの成果を得ていました。

また、セミナーの実施に当たり北海道立教育研究所、北海道教育大学、北翔大学、子どもとメディア北海道、野幌太々神楽保存会、江別第一小学校、大麻東小学校、上江別小学校、文京台小学校、江別市消防本部、江別市郷土資料館、経済部農業振興課には、講師の派遣や会場の提供、見学の受け入れ及び説明等で多大な御配慮をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

平成29年度江別市教職員夏期セミナー

今年度も、5日間にわたり、午前と午後の10講座を開設しました。

ただ、大変好評で、昨年度まで毎年お願いしていた「理科実験講座」は、理科教育センターの研修日程の都合で、今年度は開設できなくなりました。夏季休業中に様々な研修や補充授業、中体連・中文連の各種大会などがひしめき、講座の編成が年々難しい状況になってきています。

以下、セミナーの様子です。

《①今日的な教育課題》

月田健二教育長の主催者挨拶で、平成29年度の教職員夏期セミナーが始まりました。



引き続き、北海道立教育研究所の企画研修部主査、小野篤夫氏を講師に迎え、「今日的な教育課題」と題し、新学習指導要領改訂の趣旨やポイントをはじめ、最新の教育情報とその対応についてお話していただきました。

続いて、小・中学校連携をテーマに「ブレインライティング」による演習を行い、それをもとに、中学校区ごとに小・中学校連携のあり方について意見交流が行われました。

参加者は、校長先生や教頭先生、主幹教諭の先生など学校の中心となって活躍される方々で、60名を超える人数となりました。



《②小学校外国語教育》



今年度の講師は、北海道教育大学札幌校の萬谷隆一教授にお願いいたしました。萬谷先生は、小学校英語教育学会の会長を務められ、日本の英語教育に関して大変造詣が深い方です。講座

では、まず二組の模擬授業が行われました。一組目は、上江別小学校の金内学先生とアボンマイ・ジョセフさん、二組目は、大麻東小学校の吉村瑞穂先生と畑中・カートさんです。ユーモアをまじえ、担任とALTの絶妙の連携を披露してくださいました。続いて、講師から模擬授業の評価とこれからの外国語教育についてお話がありました。



《③作品の見方》



講師は、市教委学校支援地域本部コーディネーターの島田茂先生で、島田先生は、現職の頃北海道造形教育連盟の副会長をしていた方です。講義は、新学習指導要領や、授業づくりの心構えなどにふれた後、小学校と中学校の児童・生徒が実際に描いた作品を見て、授業者が「どういった思い・ねらいで」「どういった条件設定」をしたのかを学年ごとに参加者に考えてもらいました。



最後に、作品の扱いを丁寧にし、制作の条件や方向性を限定し、その範囲において評価することをお話ししていました。

《④情報モラル教育》



講師は、子どもメディア北海道事務局長の中谷通恵氏にお願いしました。

中谷氏は、小学校の教員を退職後、子育て通信を発行したり、託児グループを結成された方で、北海道のいじめ問題審議委員や、生涯学習審議委員などを歴任されている方です。

自己紹介の後、子どもの発達の道筋やLINEの実例、ゲームの影響などをお話しされ、「メディア依存を防ぐには」というテーマでグループ討議を行いました。



《⑤体力向上研修》



講師は、北翔大学の竹田唯史教授と石井由依研究員です。

前半は、教室において竹田教授から東広島市の三つ城小学校の様子や、「朝運動プログラム」の取組の報告・成果に



ついて、映像や資料を使ってお話がありました。続いて体育館に移り、石井研究員の指導により、実際の「朝運動プログラム」の内容を体験する実技が行われました。

「じゃんけんダッシュ」「宝あつめ」「フルーツキャッチ」「ぐるぐるオセロ」や「カンガルーの遠足」などの種目に、子どもの気持ちになって取り組んでいました。



《⑥児童・生徒の走り方指導》



講師は、市内小学校の「走り方教室」の指導をお願いしている、北翔大学の
大宮真一准教授です。

教室では、基本的な運動能力の相互
関係についてお話がありました。

走りの指導への課題は、自発的に考えたり感じさせたりして、自分なりのコツを見つけることである。また、スピードはストライドとピッチで決まり。6歳まで向上し、以後は一定となるので、幼児期までの走った身体感覚が小学校以後に影響する。など興味深い内容がありました。

後半は、体育館で速く走るためのトレーニングなどを実際に行い、雑巾がけなどに汗を流していました。



《⑦主体的、対話的で深い学び》



講師は、北海道立教育研究所の企画研修部主査 坂見明信氏で、新学習指導要領で求められているテーマをもとに、これからの学校教育に求められることなどをお話していただきました。現行学習指導要領から変わる点や、授業を行う上での留意点など、話しかけるような口調で、具体的な例をま

じえ、非常に分かりやすい説明でした。後半は、指導略案をもとにしたワークショップを行いました。



《⑧フィールドワーク》



今回から、全体の案内をしていただく講師を江別第一小学校の水元公康先生にお願いしました。水元先生は、社会科副読本編集委員会の事務局長をされている方です。

見学先は、江別市消防本部、屯田兵屋、えみくる、エブリの4カ所で、普段見れない場所も多く、更にバスの中でも、水元先生から見学先の補足や市内の様子の説明があり、大変好評でした。

また、当初の参加希望者も多く、定員を超過したため、事情を説明し14名の方に参加を辞退していただきました。辞退していただいた方々に、この場を借りてお詫びと感謝を申し上げます。



《⑨特別支援教育》



講師は、江別市教育委員会でSSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）として勤務し、道教委のSSWも兼ねている田村千波氏です。



昨年同様、特別支援教育の支援員、補助員、生活介助員の方々にも参加していただき、100名を超える参加となりました。

自己紹介の後、SSWとは、江別市のSSWの仕事、ソーシャルワークの視点などについてお話しがあり、発達障がいについて分かりやすく説明していただきました。



説明が非常に具体的で分かりやすかったので、先生方の反応も大変好評でした。後半は、参加された先生方がグループに分かれて事例検討を行い、発達障害について理解を深めていました。

《⑩野幌に伝わる神楽》



講師は、野幌太々神楽保存会の兼平一志氏です。

前半は、野幌太々神楽についての説明がありました。明治24年から創始され、昭和32年に保存会が設立されました。野幌の神楽のふるさととは新潟県中越地方で、野幌開拓に新潟県出身者が入植したことから来ているとのことです。



今では、地域の子どもの数が少なくなって、稚児のなり手がないという悩みなども話されていました。



後半は、「悪魔祓」と「岩戸開」の演目を披露していただきました。

小学校外国語活動・英語活動指導連絡協議会

第1回「指導計画編集委員会」の開催【9月4日(月)】

～委員長：佐野美智子先生(大麻小)、副委員長：中田まり子先生(中央小)～

小学校外国語活動・英語活動指導連絡協議会では、毎年「指導計画編集委員会」を組織し、4年生以下で実施している英語活動の指導計画や指導案の検討・修正を行ってきました。

しかし、3月に新学習指導要領が告示され、小学校外国語教育は、5・6年生の外国語活動が教科に変わり、3・4年生が新たに外国語活動となります。それに伴い、来年度から始まる移行措置に対応するために、授業時数の増加や、ALTを含む指導体制、1・2年生の英語活動などについて、この「指導計画編集委員会」の場で検討することとしました。会議は、11月まで毎月1回開催し、12月に開催する臨時連絡協議会で報告し承認していただくことにしております。

なお、本格実施後(平成32年度以降)の対応については、石狩教育研修センター主催の「小学校外国語教育の充実に関する研究委員会」の報告を待って検討することとします。